



日本ドッチビー協会

バリアフリーゲーム

「ディスゲッタードッチ」事例報告

<大会趣旨>

現在、ドッチビーの中心層である「子ども」を中心に、その「親世代」に加え、「高齢者」や「障がい者」もその場に参加者として存在する、複合的な交流を目的として開催します。ドッチビーを使用したターゲットゲームを実施種目に採用した地域交流スポーツ大会です。

(近々、日本ドッチビー協会公認競技となる予定の新しい団体戦ゲームです)

<イベント概要>

名 称：障がい者を交えたドッチビー交流会

日 時：平成24年6月23日(土) 9:00~12:00

場 所：市民大町スポーツ施設 体育館

主 催：日本ドッチビー協会 / (公益社団法人)東京都障害者スポーツ協会 / NPO法人 調和SHC倶楽部

協 力：調布市・スポーツ祭東京 2013 調布市実行委員会

<タイムテーブル>

9:00~9:15	開会 挨拶	ルール説明
9:15~9:30	各予選リーグ	第1試合 ① / 第2試合 ②
9:30~9:45	各予選リーグ	第3試合 ③ / 第4試合 ④
9:45~10:00	各予選リーグ	第5試合 ⑤ / 第6試合 ⑥
10:00~10:15	休憩・予選集計	
10:15~10:30	トーナメント	各第1試合 ① / 第2試合 ②
10:30~10:45	トーナメント	各第3試合 ③ / 第4試合 ④
10:45~10:55	トーナメント	各第5試合 ⑤ / 第6試合 ⑥
10:55~11:10	トーナメント	各第7試合 ⑦ / 第8試合 ⑧
11:10~11:25	休憩・結果集計	
11:25~11:35	表彰式	
11:35~11:45	挨拶 閉会	

<競技方法>

- 3人で1チームを構成。
16チームによる的当てゲームの対戦とします。
 - チームの構成は申込者すべてをシャッフルして主催者により決定、当日発表します。
- ★ルール等競技の詳細は別紙をご参照ください。
- 予選リーグ → 4チームで1リーグを構成。
総当戦をおこない、各リーグ内での順位を決定します。
 - ◎決勝トーナメント → 予選リーグ各1/2位の8チーム
予選リーグ各3/4位の8チームそれぞれにおいて対戦し、
最終順位を決定します。

- <事前打合せ> ・ 1月6日（金）調布市文化会館たづくりにて ドッチビー協会（稲垣）／ SHC倶楽部（坂井 石井）
- ・ 4月3日（火）東京都障害者スポーツ協会（飯田橋）にて ドッチビー協会（稲垣・林）
障害者スポーツ協会（高山・矢本・萩原・樋口）
SHC倶楽部（森山・石井）
- ・ 6月15日（金）SHC倶楽部にて ドッチビー協会（林）
障害者スポーツ協会（矢本・萩原）
SHC倶楽部（坂井・石井）

<参加募集案内／配布一覧表>

日付	訪問先	部数	日付	訪問先	部数
4/10	ポピーの家（福祉作業所）職員4名へ説明	10	5/10	スポーツ推進委員会	25
14	ちょうふだぞう（就労支援センター）	20	17	調布市健康体操 高松さん のびのびサークル（社会教育課事業）	100 25
17	社会福祉協議会（飯田係長・本田さん） 福祉作業所連絡会（太田さん）	20 50	31	調布市立第七学校 相談学級 のがわ学級（調和小学校内） おおまち学童クラブ	10 50 20
22	葛岡さん（特別支援学級 親の会）小中高卒業者 調布市立第三中学校 森先生 坂井さん（調和SHC倶楽部）	50 20 20			
30	NPO法人ポコポコホッピング（障害児放課後活動）	20			
					合計440

＜当日参加者／一覧表＞

参加者 人数	合計	51	
障がい者	20		(肢体不自由・視覚障害・精神障害・知的障害・車椅子他)
親子(3組)	8		
一般(高齢者)	7		
おおまち学童クラブ	13		
調和SHC倶楽部	3		
見学者 人数	合計	17	
NPO法人 ポコポコホッピング	13		(障害児放課後活動)
障害者(車椅子)・付き添い・一般	4		
スタッフ 人数	合計	34	
日本ドッチビー協会	4		
東京都障害者スポーツ協会	3		
ボランティア(国士館大学他)	6		
調布市スポーツ推進委員	12		
調和SHC倶楽部	9		
行政他(視察) 人数	合計	9	
東京都スポーツ振興局	1		スポーツ事業部障害者スポーツ担当
調布市生活文化スポーツ部	1		スポーツ振興課
調布市生活文化スポーツ部	4		国体推進室
笹川スポーツ財団	2		スポーツ政策研究所
黄金井倶楽部(小金井市)	1		
総合計		111名	

<終了後 反省会／意見>

日本ドッチビー協会

- ・ 備品に不備あり、スコアシートにチーム名を記入する覧が必要だった。
- ・ 自分がどのチームなのか把握していない人が多かったのでチーム名をつけた方が良い
- ・ ゲームの時間をたつぷりと余裕を持ったつもりだったが、それでも足りなかった。
- ・ 役割分担を明確にすべきだった。
- ・ とても素晴らしいイベントで雰囲気がよい現場、次回も開催してほしい。

東京都障害者スポーツ協会

- ・ 視覚障害者チームの時間が延びてしまったので、ドッチビー協会に情報提供をしておくべきだった。
- ・ ボランティアを10人集める予定だったが、6人ではやはり少なかった。
- ・ 7～8割の参加者が、設定した赤のラインで投げることができた。
- ・ 障害者、一般、子ども達と色々な人が混ざっても違和感がなかった。
- ・ 子ども達が走っている場面があり、危ないと感じることもあった。

調和SHC倶楽部

- ・ 準備不足があり、スムーズな進行ができなかった。
- ・ 集計のミスがあった。
- ・ チームごとに担当スタッフを決め、コートへの移動などの誘導ができればよかった。
- ・ 準備から片付けまで余裕をもってできるように、体育館の時間確保が必要と感じた。
- ・ 障害があると色々な準備に時間がかかるので、午後の開催にしてほしい旨の希望があった。

市スポーツ推進委員

- ・ 忙しかったが、とても楽しくて皆さんから元気をもらった。
- ・ 障害のある人でも楽しめるゲームで大盛況だった。
- ・ いい試みだったと思う。反省点は次回に繋げよう。
- ・ とても学ぶことが多かった。お手伝いできてよかったのでまた参加したい。

東京都スポーツ振興局

- ・ 素晴らし取り組みで、この自然な感じは何だろうと思った。
- ・ 構えずに色々な団体が協力していたので、今後もこのような連携体制ができれば素晴らしいと思う。

(障害者だけの交流会は知っているが、今回のように元気な子ども達や高齢者など様々な人達が集った取り組みは初めて体験した)

